

## ●自由記載欄の主な回答

### 【献血未経験者】

#### Q16-1 献血するきっかけとなり得る要因

(「献血したときの処遇品(記念品)がよくなった」の具体例)

- ・ 図書券、商品券、クオカードなどの金券
- ・ お金
- ・ 食べ物、飲み物 他

#### Q16-2 献血するきっかけとなり得る要因

(「献血ルームのサービスが良くなった」の具体例)

- ・ 待ち時間のフリードリンク
- ・ 待ち時間の短縮
- ・ リラックスできる環境
- ・ マッサージ 他

#### Q16-3 「献血は絶対しない」を選んだ理由

- ・ 貧血(または貧血気味)
- ・ 血をとられるのがいやだ
- ・ 血を見るのがいやだ
- ・ 痛い、針を刺すのがいやだ、注射が苦手
- ・ 薬を飲んでいる
- ・ 時間がない、面倒 他

#### Q20 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいか

- ・ タレント、アイドルをキャンペーンに起用する
- ・ テレビCM
- ・ インターネットや携帯電話で広告
- ・ 処遇品、記念品の充実や報酬
- ・ 献血できる場所を増やす
- ・ 献血の重要性をわかりやすく伝える
- ・ 学校での献血、献血バスを増やす
- ・ 学校での教育
- ・ 痛くない針などがあれば 他

【献血経験者】

Q15 初めての献血で400 mL 献血をすることが不安な理由

- ・ 貧血が心配、
- ・ 倒れそう
- ・ 量が多いと感じる
- ・ 最初は少ない方がよい
- ・ 以前に体調が悪くなった
- ・ 不安

他

Q24 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいか

- ・ 献血できる機会を増やす
- ・ 学校での献血を増やす
- ・ 高校での集団献血が効果的
- ・ 献血をする場所・時間を教える
- ・ インターネットでの広告
- ・ 芸能人や若者に影響力のある人を起用したキャンペーン
- ・ 処遇品、記念品の充実
- ・ もっと献血の重要性をアピールする
- ・ 若者の集まる場所でのPR活動
- ・ 学校での教育

他

## 年齢別実献血者・人口分布グラフ及び年齢・施設別延べ献血者グラフ 【6都道府県抜粋】

### 1. 対象データ

#### ● 抽出都道府県

大都市として「東京都」、「大阪府」。政令指定都市を有する「北海道」。大都市を有しない地方として「山形県」、「高知県」、「宮崎県」を抽出。

#### ● 人口分布データ

平成17年国勢調査の結果を用い、2年分スライドして反映。

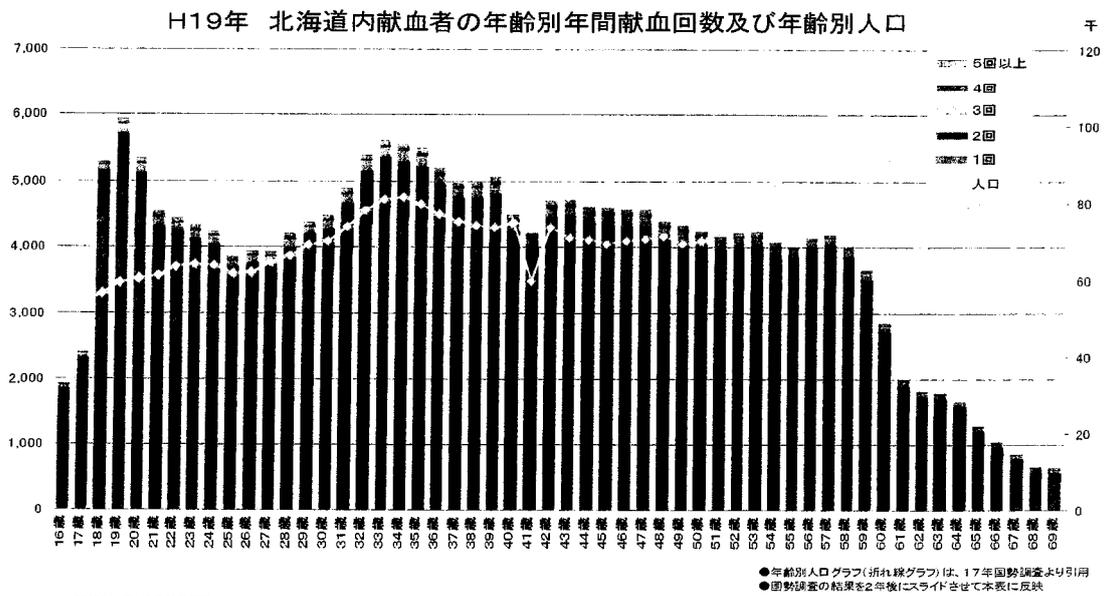
#### ● 献血者数

平成19年の献血者実数を献血回数別に集計。ただし、年齢・施設別の献血者数は延べ人数で集計。

### 2. 全体としての傾向

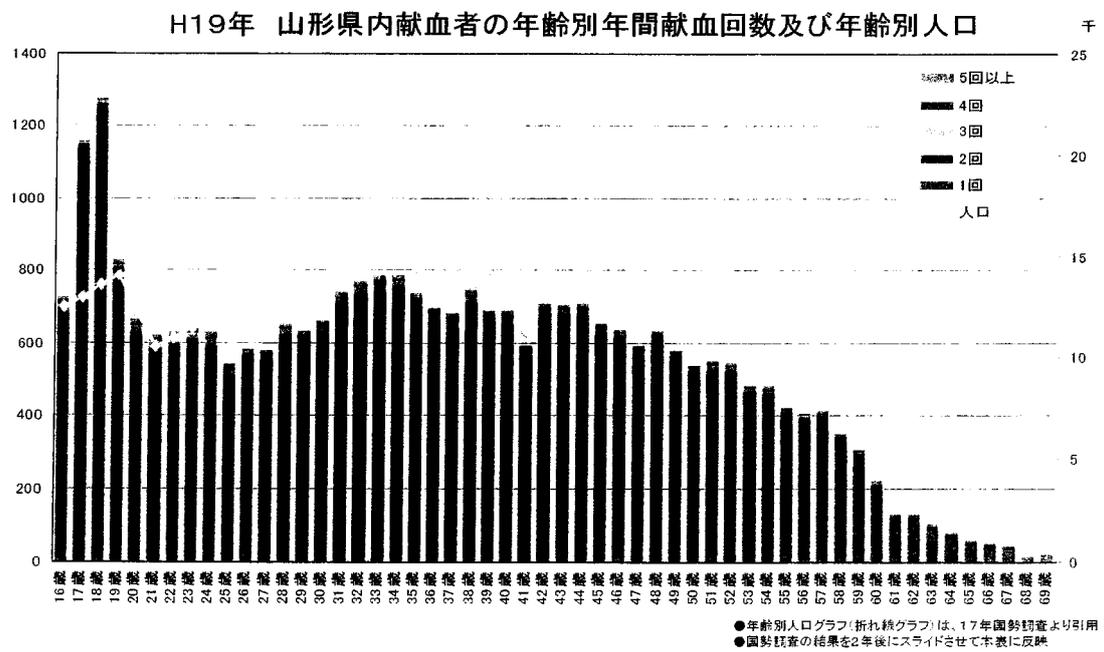
- 16～17歳の実献血者数は概ねどの地域でも少ない。
- 大阪府以外では18～19歳に大きなピークがみられる。
- どの地域も20代の実献血者数とその前後の年代に比べ少なく、18～19歳のピーク後の20代の減少がみられる。
- どの地域においても30代前半の実献血者数が多い。
- 東京都では40歳以上の実献血者数が少ない。
- 年間複数回献血者の比率は、各年齢でばらつきはあるものの、地域間で大きな差はない。
- 東京都以外では、全般に移動採血車による献血も相当ある。

## 年齢別実献血者・人口分布グラフ【6都道府県抜粋】



### ● 実献血者数分布と人口分布の比較

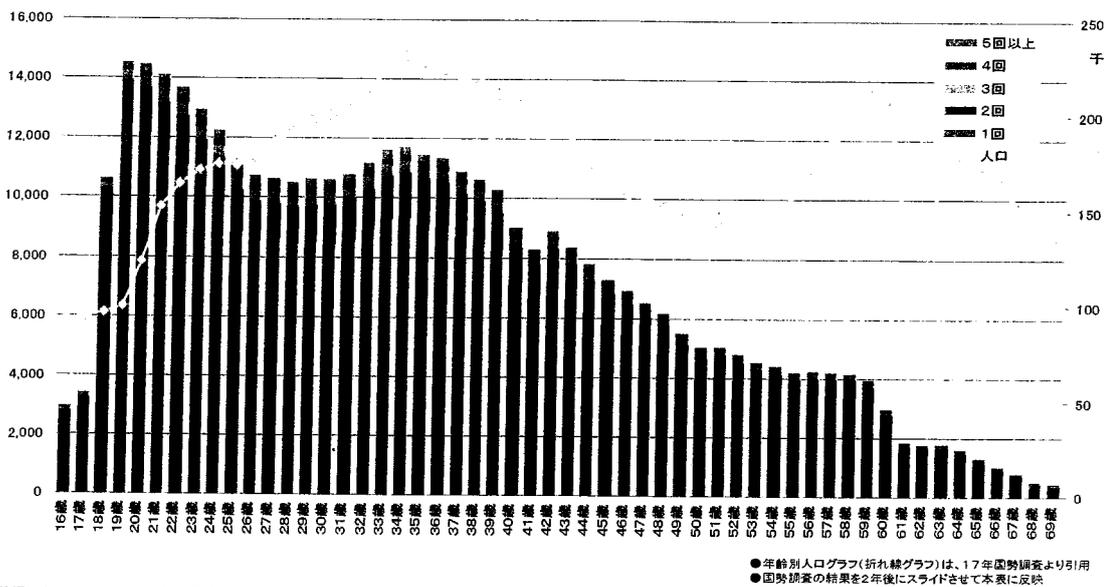
18～20歳の人口分布と比較すると献血者分布が多い。50～58歳の人口は上昇しているが、献血者の分布はほぼ平行。



### ● 実献血者数分布と人口分布の比較

17、18歳の人口分布と比較すると献血者分布が多い。43～57歳までの人口分布は緩やかに増加しているが、献血者分布は緩やかに減少。

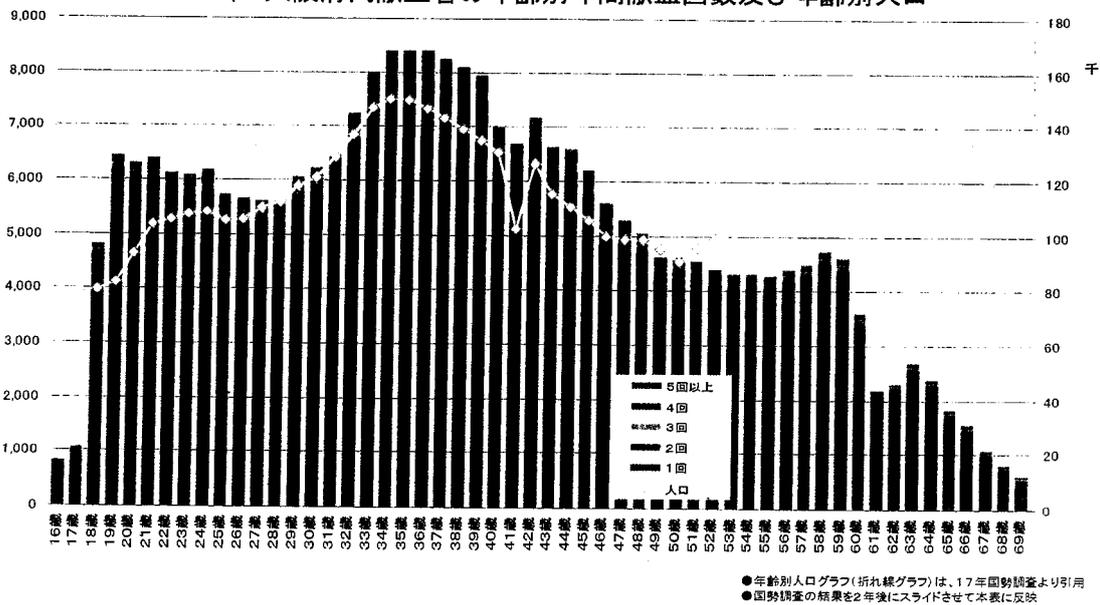
H19年 東京都内献血者の年齢別年間献血回数及び年齢別人口



● 実献血者数分布と人口分布の比較

30代前半と59歳前後に人口分布のピークがある。献血者分布は19歳をピークに減少し、30代前半に緩やかな第二のピークが見られてからほぼ減少し続ける。

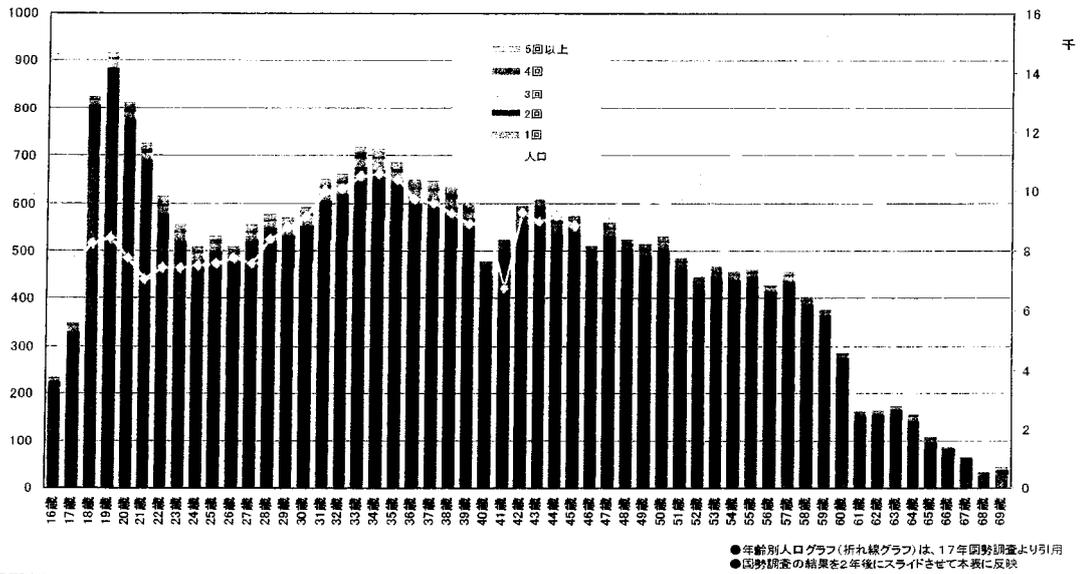
H19年 大阪府内献血者の年齢別年間献血回数及び年齢別人口



● 実献血者数分布と人口分布の比較

18～20歳の人口分布と比較すると献血者分布が多い。50～59歳の人口分布は上昇しているが、献血者分布は50～55歳まで緩やかに減少後、56～58歳までは緩やかに上昇している。

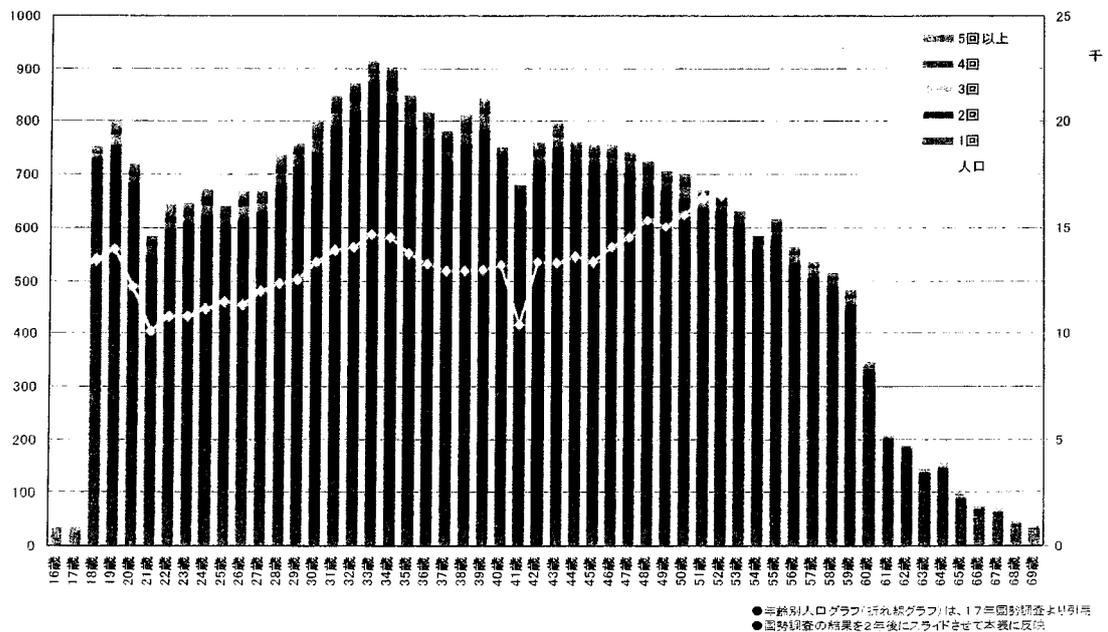
H19年 高知県内献血者の年齢別年間献血回数及び年齢別人口



● 実献血者数分布と人口分布の比較

18、19歳の人口分布と比較すると献血者分布が多い。49～57歳の人口分布はほぼ上昇しているが献血者分布は減少している。

H19年 宮崎県内献血者の年齢別年間献血回数及び年齢別人口

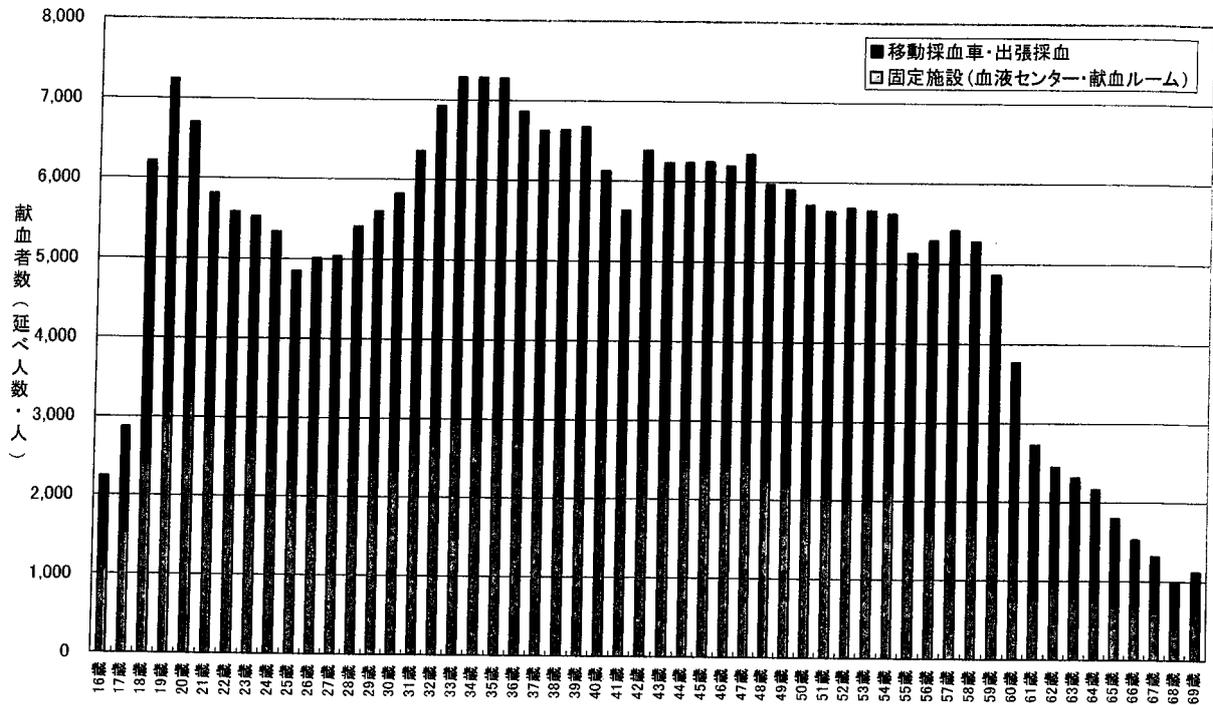


● 実献血者数分布と人口分布の比較

18、19歳の人口分布と比較すると献血者分布が多い。50～57歳の人口は上昇しているが、献血者の分布ほぼ減少している。

## 年齢・施設別延べ献血者グラフ【6都道府県抜粋】

H19年 北海道内の施設別献血者数



● 延べ総献血者数 276,823人

移動採血車・出張採血 166,157人 (60.0%)

固定施設（血液センター・献血ルーム）110,644人 (40.0%)

● 年齢別に見る施設別献血者数

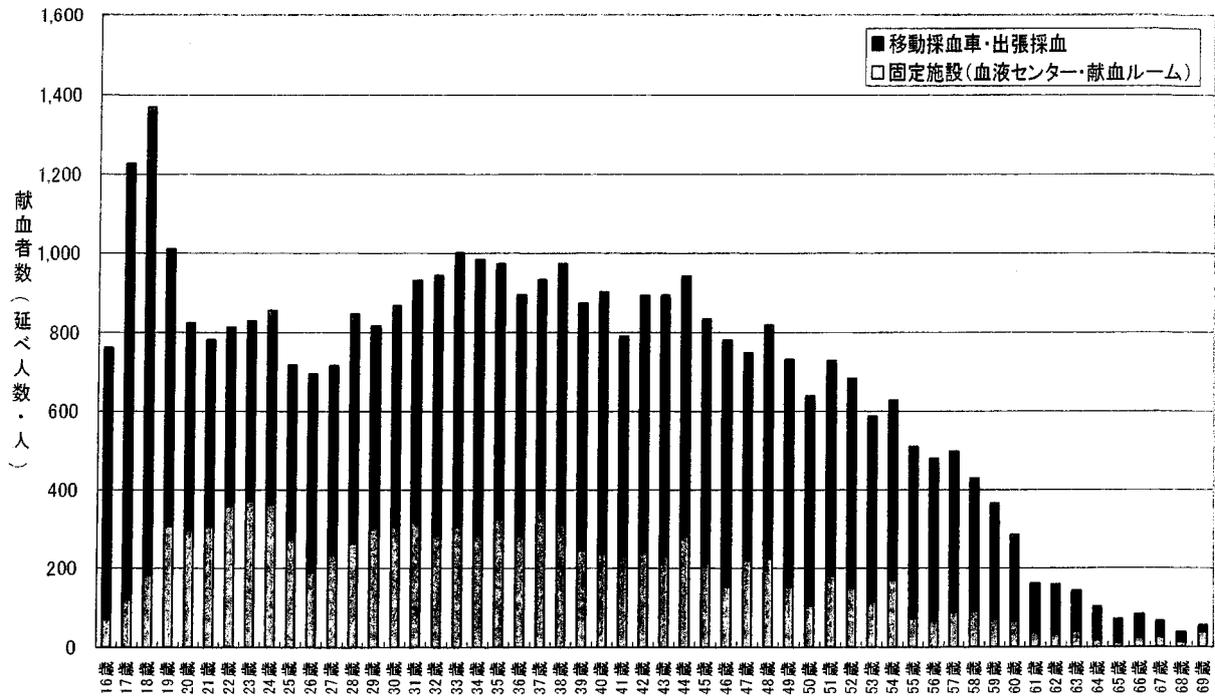
16～23歳は18、19歳を除き固定施設の割合がおおむね50%前後だが、18、19歳と20歳代後半～68歳は移動採血車・出張採血の割合が60～70%。

● 血液センター、献血ルーム数（平成20年4月1日現在）

血液センター：5カ所

献血ルーム：6カ所

H19年 山形県内の施設別献血者数



● 延べ献血者数 36,705人

移動採血車・出張採血 26,395人 (71.9%)

固定施設(血液センター・献血ルーム) 10,295人 (28.1%)

● 年齢別に見る施設別献血者数

20歳代前半を除き、移動採血車・出張採血の割合が65~90%。

中でも16~18歳と50歳代後半~60歳代前半に移動採血車・出張採血の割合の高い年齢層(80~90%)が見られる。

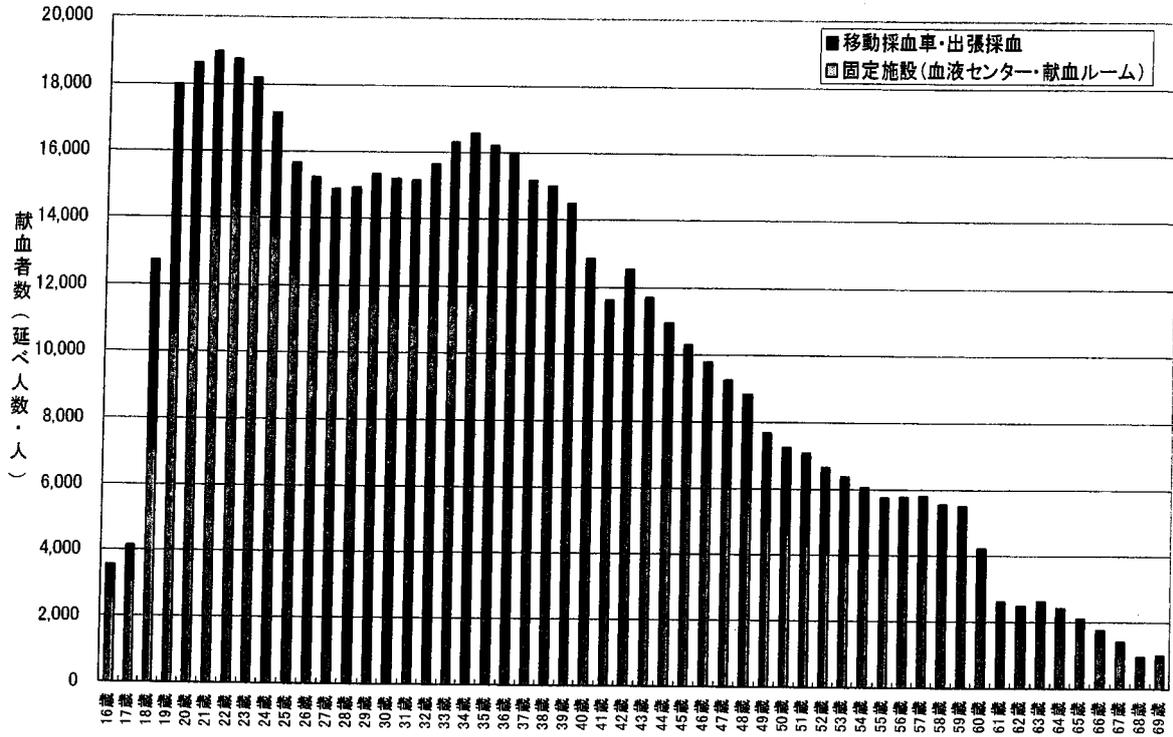
20~25歳は、他の年齢に比べて移動採血車・出張採血の割合が55~63%とやや低くなっている。

● 血液センター、献血ルーム数(平成20年4月1日現在)

血液センター: 1カ所

献血ルーム: 1カ所

H19年 東京都内の施設別献血者数



● 延べ献血者数 550,525人

移動採血車・出張採血 175,198人 (31.8%)

固定施設(血液センター・献血ルーム) 375,291人 (68.2%)

● 年齢別に見る施設別献血者数

全年齢を通して固定施設の割合が55%を超えており、特に16、17歳、20歳代前半～30歳代前半、60歳代後半は固定施設の割合が70%超と高い。

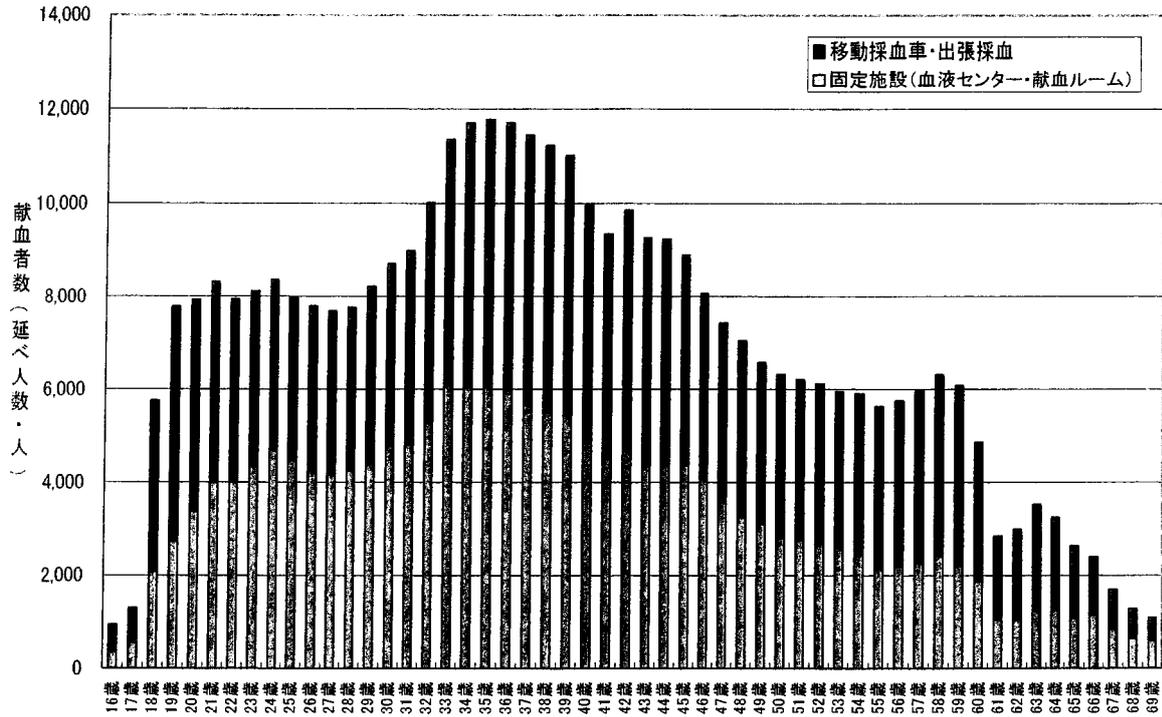
一方、18、19歳と50歳代後半は固定施設の割合が55～59%とやや低い。

● 血液センター、献血ルーム数(平成20年4月1日現在)

血液センター：2カ所

献血ルーム：12カ所

H19年 大阪府内の施設別献血者数



● 延べ献血者数 375,972人

移動採血車・出張採血 196,259人 (52.2%)

固定施設 (血液センター・献血ルーム) 179,688人 (47.8%)

● 年齢別に見る施設別献血者数

20歳代～30歳代前半と69歳は固定施設の割合が50～56%。

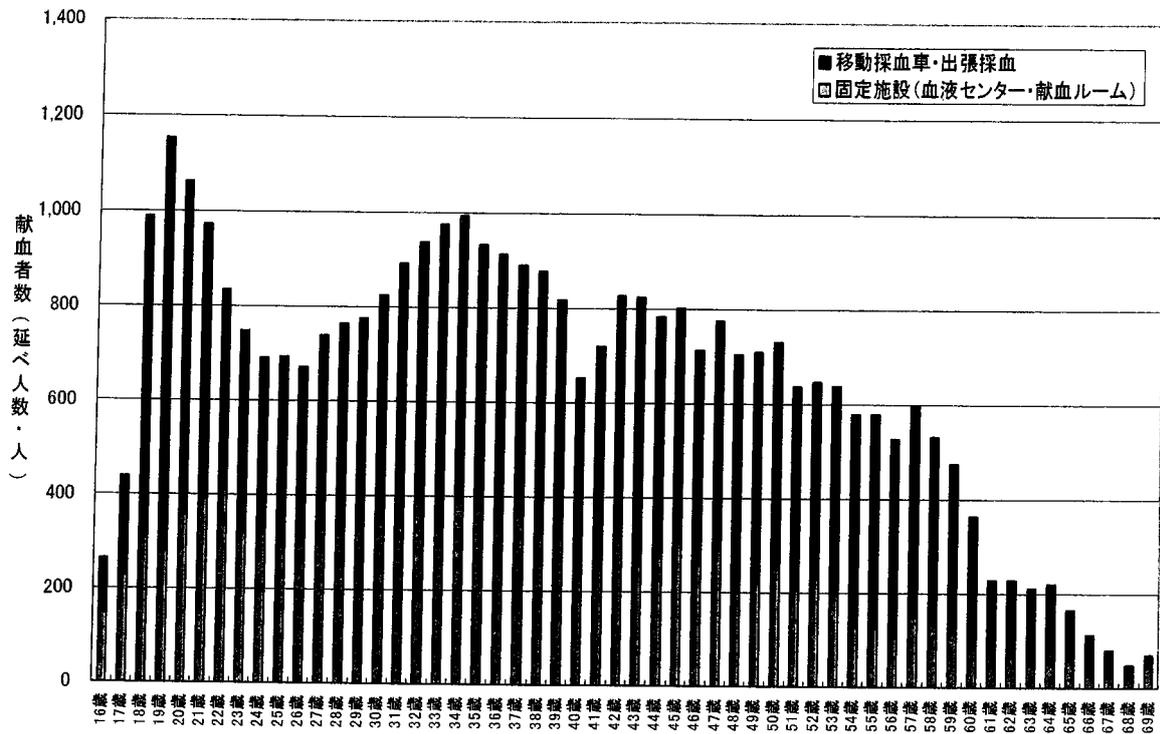
一方、16～19歳、50歳代後半～60歳代前半は、移動採血車・出張採血の割合が59～65%とやや高い。

● 血液センター、献血ルーム数 (平成20年4月1日現在)

血液センター : 3カ所

献血ルーム : 9カ所

H19年 高知県内の施設別献血者数



● 延べ献血者数 35,021人

移動採血車・出張採血 22,287人(63.7%)

固定施設(血液センター・献血ルーム) 12,715人(36.3%)

● 年齢別に見る施設別献血者数

16、17、69歳で固定施設の割合が52～60%であることを除き、移動採血車・出張採血の割合が高い(おおむね60～70%代後半)。

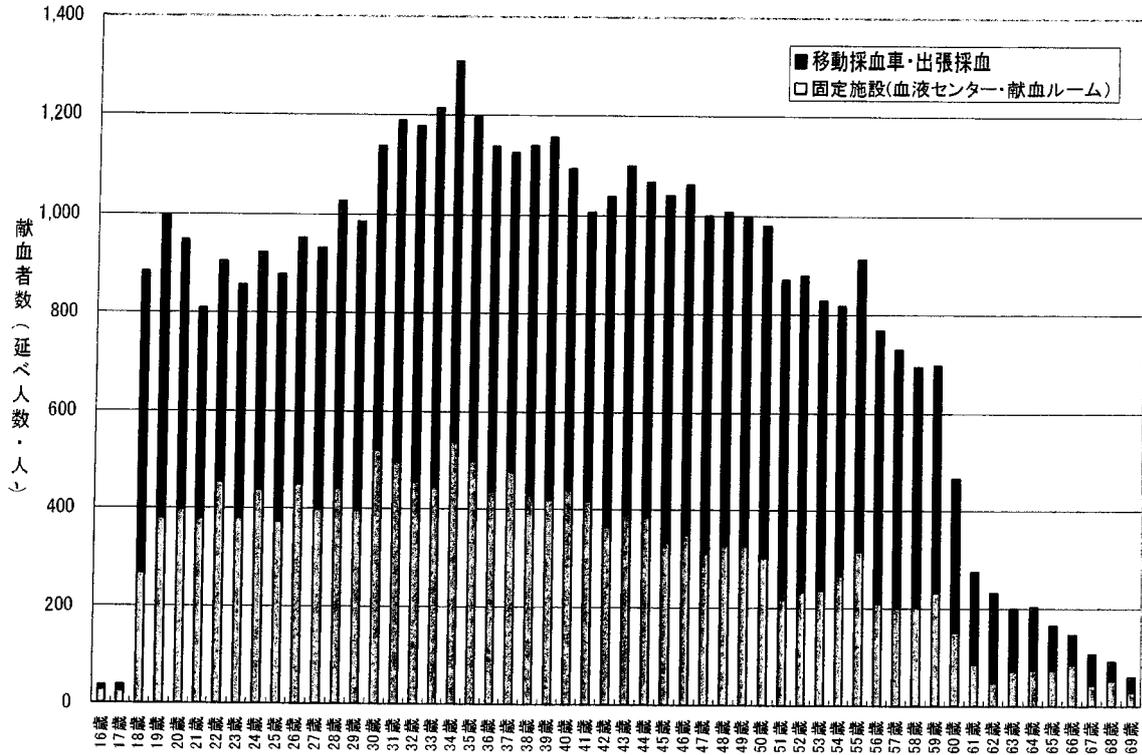
19歳と50歳代後半～60歳代後半にかけて、移動採血車・出張採血の割合が高い年齢層(74～79%)が見られる。

● 血液センター、献血ルーム数(平成20年4月1日現在)

血液センター：1カ所

献血ルーム：1カ所

H19年 宮崎県内の施設別献血者数



● 延べ献血者数 43,497人

移動採血車・出張採血 27,164人(62.5%)

固定施設(血液センター・献血ルーム) 16,312人(37.5%)

● 年齢別に見る施設別献血者数

16歳、17歳で固定施設の割合が75.0%、67.6%と高いことを除き、特に50歳代から60歳代前半にかけて、移動採血車・出張採血の割合が高い年齢層(おおむね60~70%代後半)が見られる。

● 血液センター、献血ルーム数(平成20年4月1日現在)

血液センター: 1カ所

献血ルーム: 1カ所